

限界に挑んだ夏

道着を身にまとうと精神な顔つきへと変わる。精神を統一させ声を張り上げて、突き、蹴り、投げ、組手の演武に励むのは少林寺拳法御船道院の拳士だ。週2回、スポーツセンター武道場で心身を鍛錬している。

御船道院は8月20日と21日の2日間、香川県多度津町で開催された全国中学校少林寺拳法大会に県代表として4年連続で出場した。競技種目は団体演舞。制限時間2分以内で6構成の形を披露して、技術と表現の合計点で競い合った。会心の演舞を披露するも、全国の壁は高く予選通過はならなかった。

「まだまだ自発的な練習が足りません。すべては意識の持ち方が大切です」と大会を振り返るのは御船道院の緒方朗道院長。

「少林寺拳法は一生の修行で、世の中で人の役に立つ人間を育てることが目的です。壁にぶつかったとき、精神的な強さで乗り越える力も養います」と話を続けます。

その考え方を実践するた

●少林寺拳法御船道院

少林寺拳法は昭和22年、宗道臣が創始した「人づくりの行」。香川県多度津町が発祥の地。修行で、人の可能性、自信と勇気と行動力、社会に貢献できる人づくりなどを目的。御船道院は昭和46年設立。拳士は上益城郡と熊本市を中心に延べ500人を数える。平成22年に2代目・緒方朗道院長が就任。現在、5～41歳までの男女29人が活動。練習は毎週水曜日と土曜日の19時30分から21時30分まで。場所はスポーツセンター武道場。入門などの問い合わせは緒方朗道院長☎0964-28-0254まで。

め武道場の外でも、福祉施設の餅つき、ワクチン用のペットボトルキャップ回収、バザー収益金の寄附など、社会奉仕活動にも力を入れている。

「修行は、自己確立と個々の共存を目指すもの。自立環境へとつなげ、相手の気持ちを理解する心に気づいてほしいと思います」と指導方針を打ち明けます。

「少林寺拳法は平成26年度からインターハイ種目に加わります。今、御船高校に愛好会設立を打診中です。郷土から全国大会出場も夢ではありません」と新たな夢にも目を輝かせる。

kung fu

全国中学校少林寺拳法大会出場

不屈の精神が拳に宿る優しき拳士



少林寺拳法御船道院

来海 航平拳士
(御船中3年・辺田見)

山田 博史拳士
(御船中3年・辺田見)

立村 勇盛拳士
(御船中3年・陣)

渡辺 俊拳士
(御船中1年・陣)

緒方 恵里可拳士
(上城南中2年・熊本市)

彌永 裕太拳士
(御船中3年・木倉)



御船城山少年野球クラブ

Baseball

全九州山口少年野球大会・九州選抜学童野球大会に出場

26年ぶりに県を制覇した27戦士

今年とはにかく勢いに乗っている。その勝負強さは本物だ。新たな歴史を刻むのは御船城山少年野球クラブ。

今シーズンは、郡大会で優勝2回、準優勝2回のタイトルを獲得。ついには、第29回九電旗学童軟式野球県大会で、230チームの頂点へと登り詰めた。実に26年ぶり2回目の優勝をつかみとり、県代表に選出。今夏、九州大会に2大会の出場権を手にした。

7月30日に福岡県朝倉市で開かれたJALカップ第30回全九州・山口少年野球大会は、3回戦・古賀東エンゼルス(福岡県)に5-6で惜敗してベスト16。

8月19日に福岡県北九州市で開催した第19回九州選抜学童軟式野球大会は、2回戦・則松ファイヤーズ(福岡県)に2-3で敗れてベスト16を収めた。

今年の城山クラブは、接戦や逆転で勝ち星を積み重ね、勝率が7割を超える。しかも強いだけではない。御船川清掃や東日本大震災義援金など、社会貢献活動で心を磨いている。

●御船城山少年野球クラブ

昭和50年4月創部。今シーズンは、高円宮杯郡大会、スポーツ少年団郡大会、九電旗学童軟式野球県大会で優勝。最高戦績は昭和57年、全国スポーツ少年団軟式野球大会で3位入賞。平成23年から指揮を執るのは6代目・徳永直幸監督。現在、小学1～6年生まで27人で活動。本拠地は町民グラウンド。練習は毎週水曜日から日曜日の17時から20時まで。入部は町内の小学校に通う児童であれば可能で見学は自由。入部など詳しい内容は電話でお尋ねください(岩本和明保護者会長☎282-0784)。

「城山クラブは野球を楽しんで、好きになって、思いやりのある子どもを育てること。日頃から人のためになることが野球にもつながり、試合で女神がついてきます」と指導方針を明かすのは徳永直幸監督。

川端章咲斗主将は、「初めて県大会で優勝できてうれしかった。チームは打撃が好調で、ベンチも一緒になって盛り上がる全員野球。何事も最後まで諦めずに声を出して、練習に取り組んでいきます」と力強く話す。

真っ直ぐな野球少年を育成する城山クラブ。この伝統は昔も今も変わらない。